



第二ぎんなん便り

社会福祉法人
熊本市手をつなぐ育成会
第二ぎんなん作業所
平成28年4月27日発行
第359号

よろしくお願いします

4月から施設長となりました高橋です。3月までは熊本支援学校で勤務していました。35年間ずっと養護学校・特別支援学校、教育行政(特別支援教育業務)など、障がいのある子どもの教育の仕事に携わってきました。



熊本市手をつなぐ育成会には、熊大附属養護学校時代から青年教室(現在の「つなごう会」)の活動に参加してきました。

第二ぎんなん作業所は、建物が老朽化していて環境的には必ずしも良好とは言えませんが、利用者本位の運営がなされているいい事業所だと思います。

学校勤務時代は、子どもたち、保護者のためにできることを精一杯やる、いい教育をしたいということ、ずっと考えながらやってきたつもりです。作業所でも同じ考えでいきたいと思っています。

これから、どうぞよろしくお願いいたします。

ろうという考えもあったかも知れませんが、そのような甘さを打ち砕く今回の大地震でした。

「まさか」とか「来ないだろう」ではなく、「来るかもしれない」「いつか来る」という意識で、水に限らず様々な備えをしなければならないということが、今回の大地震で得られた一番の教訓でしょう。

4月27日現在、まだまだ余震が続く不安な毎日です。1日も早く収まってほしいと願うばかりです。(高橋)

春の遠足 鹿北、山鹿

4月8日(金)は、毎年恒例の「春の遠足」で、今年は山鹿市の道の駅鹿北「小栗郷」と県立装飾古墳館に出かけました。



みんなでピザ作り

完成したピザ(焼く前)

道の駅では石窯ピザ作り体験にチャレンジ。皆それぞれのトッピングを行い自分だけのピザを作ることができ、焼きあがったピザをおいしくいただき大満足でした。

装飾古墳館では、熊本にしかない珍しい古墳群を見学し、郷土の歴史に触れるいい機会となりました。



装飾古墳館見学

春の遠足は作業所行事の中でも人気の行事ですので、次回も皆が楽しめる内容で続けていきたいと思っています。(太田家)



28年熊本大地震

熊本県を、14日(木)午後9時25分と16日(土)午前1時25分、これまで県民が経験したことのない大きな地震が襲い、その後も頻発する余震で、地震の恐ろしさになす術がない落ち着いたない日々が続いています。まだ避難所生活をなさっている方もたくさんいらっしゃいます。被害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

作業所の方は、屋内はテレビや棚が倒れて荷物が散らばったりしていましたが、外のブロック塀も傾いたり倒壊したりしてました。危険なので、応援に来てくださった利用者の親さんとその会社の方とともに、15日(金)、18日(月)、19日(火)の3日間、ブロック塀を倒して撤去する作業をしました。作業所の周りがすっきりしましたが、大地震後の大変お忙しい中、3日間もご協力いただき感謝申し上げます。



ブロック塀の解体作業

ところで、3月までいた熊本支援学校では、東日本大震災を教訓に児童生徒と教職員全員分(約800リットル)の水を備蓄していましたが、近隣の小・中学校とともに、学校の体育館を避難所として開放した際、この備蓄水が大変役立ったと聞きました。備蓄するときは、まさか必要になることはないだ

健康診断

20(水)には、藤崎宮参道にある吉田病院で、健康診断を受けました。

病院が苦手な人も、採血の針を怖がる人も、あまり動揺がない人もいました。



利用者の中には中高年の人もいますので、自分で自分の健康を管理することがとても大切になってきます。

検査結果が出ましたら、ぜひご家庭で本人と健康について話題にしてください。(高橋)